

看護学生のメディアからの情報収集に関する状況とその変化（第3報）

— 本学看護学科2期生の入学時と卒業時の縦断調査から —

南雲美代子¹⁾ 滝内隆子²⁾ 佐々木真紀子³⁾

The Aspects of Information Obtaining from Media, how and what Student Nurses Choose -Surveys over the second school-year Students who major in nursing, at the period of entering, and at that of graduation- (3rd Report)

Miyoko NAGUMO Takako TAKIUCHI Makiko SASAKI

要旨：日本赤十字秋田短期大学看護学科2期生における入学時と卒業時のメディアからの情報収集の状況とその変化を明らかにする目的で、多肢選択（一部自由記載）による質問紙での縦断調査を実施した。調査内容は、新しい情報を得るメディア、テレビの視聴状況、新聞の閲読状況、雑誌の閲読状況、読書状況である。

64の有効回答を集計した結果、以下の結論が得られた。1) 新しい情報メディア上位3つは、入学時・卒業時ともにテレビ、新聞、会話であった。2) テレビは入学時・卒業時ともに9割以上の学生が見ており、よく見る番組は、入学時・卒業時ともにドラマ、歌であった。3) 新聞を「毎日読む」「時々読む」をあわせると入学時約81%、卒業時約91%であり、よく読む新聞欄は、入学時・卒業時ともにテレビ・ラジオ番組、医療福祉関係、事件であった。4) 雑誌を「よく読む」「時々読む」をあわせると入学時約85%、卒業時約70%であり、よく読む雑誌の種類は、入学時・卒業時ともにファッションが最も多かった。5) 本を「よく読む」「時々読む」をあわせると入学時約85%、卒業時約52%であり、入学時に比べ卒業時では本を読まなくなった。これらの間では0.1%水準で有意な差があった。よく読む本の種類は、入学時・卒業時ともに小説が最も多かった。

キーワード：情報収集，新聞閲読，読書志向，メディア，縦断調査

Summary : This survey's purpose is to clarify what kind of information student nurses obtain from media. Using multiple choice questionnaire form(including free style description), survey were executed two times toward the second school-year students; once when they entered, twice when they are graduating the Japan Red Cross Junior College of Akita.

Examined matters were ; ①kind of media from which they get brandnew infomations, ② what they watch on TV programs, ③what they read from newspaper, ④what they read through magazines, and ⑤the genre of books they read.

64 valid replies were analysed to prove following conclusions:

1)The best three media from which they get brandnew information were TV programs, newspaper, and chatting. This ranking did not change throughtout the college terms (from the entering period to the graduation period). 2)Throughout the college terms, over 90% of students preferred TV programs to any other media. The most favored programs were drama and hit-song show. 3)81% of freshmen and 91% of graduating students read newspaper everyday or frequently. Interested page were TV / radio program table, followed by the articles of medicine / welfare matters, and social incidents. 4)85% of freshmen and 70% of graduating students read magazines frequently or sometime. The most favored genre was fashion throughtout the college terms. 5)85% of freshmen favored reading books, where as graduating students less read books by 52%. 0.1% level of significant difference was found between them. The best favored genre of book was novel throughtout the college perid.

Keywords : Information Obtaining, Reading Newspaper, Intention of Book Reading, Media, Yearly Survey

1) 看護学科講師, 2) 石川県立看護大学助教授, 3) 秋田大学医療技術短期大学部看護学科助教授

はじめに

私たちは、看護基礎教育を実施していく上で看護学生がどのようなメディアからどのような情報を得ているのかを知ることが重要であると考えた。そして、日本赤十字秋田短期大学（以下本学という）看護学科1・2期生に入学時および2年次にメディアからの情報収集に関する調査^{1) 2) 3) 4)}を行なった。結果、情報収集メディアとしてテレビ・雑誌が多いことが明らかになった。このことを視聴覚教材の活用、資料は図を多用して作成するなど教授・学習活動を効果的に進めることに役立ててきた。情報は、看護の専門的判断や行動を決定するために必要な知識、事柄であり、卒業時にどのように変化しているかを知ることが、今後の教育活動の指針となると考えた。そこで、今回、本学の看護学科2期生に対し、卒業時に同様の調査を行い、入学時と比較検討した。

なお、この研究は入学時・卒業時に本学2期生に実施した調査の一部である。

<用語の操作的定義>

情報：判断を下したり、行動を起こしたりするために必要な知識、事柄。

情報収集：情報を集めること、集めたもの。

メディア：(情報を得るための) 媒体、手段。

I. 研究目的

本学看護学科2期生の入学時と卒業時のメディアからの情報収集の状況とその変化を明らかにする。

II. 研究方法

1. 調査対象：本学看護学科2期生78人中、入学時・卒業時ともに協力の得られた64人。

2. 調査期間：入学時 平成9年4月
卒業時 平成12年2月

3. 調査方法：入学時・卒業時ともに筆者らが作成した質問紙による調査であり、入学時は集合調査、卒業時は留め置き調査。被調査者には、調査の目的を説明し了解を得たうえで記名式とした。調査項目は、a.新しい情報収集メディア、b.テレビの視聴頻度、c.よく見るテレビ番組、d.新聞の閲読頻度、e.よく読む新聞欄、f.雑誌の閲読頻度、g.よく読む雑誌の種類、h.読書の頻度、i.読書の種類であり、a~f.h.については多肢選択法、g.i.につ

いては自由記載法とした。

4. 分析・集計方法：入学時・卒業時ともに、以下の集計・分析方法を行った。

- 1) 多肢選択法の回答については、単純集計を行った。
- 2) 自由記載のg. i. については、記載内容を1要素1内容に分類した上で、カテゴリー化し、それぞれのカテゴリーに命名を行った。分類・カテゴリー化の信頼性を高めるために、研究者間で一定期間をおき3回検討を行った。
- 3) 1) 2) の集計結果を入学時と卒業時で比較分析し、b. d. f. h. については、差を明確にするために χ^2 検定を行った。

III. 結果

1. 新しい情報収集メディア

1) 入学時の新しい情報収集メディア

新しい情報収集のメディア上位3つに記載があった64人の記載総件数は190件であり、記載内容を順位別に分類したものが表1である。「テレビ」が63件(33.2%)と最も多く、次いで「会話」が44件(23.2%)、「新聞」が34件(17.9%)であった。

2) 卒業時の新しい情報収集メディア

新しい情報収集のメディア上位3つに記載があった64人の記載総件数は191件であり、記載内容を順位別に分類したものが表2である。「テレビ」が63件(33.0%)と最も多く、次いで「新聞」が41件(21.4%)、「会話」が38件(20.0%)であった。

表1 入学時の新しい情報収集メディア

メディア	記載件数(%)
1. テレビ	63(33.2)
2. 会話	44(23.2)
3. 新聞	34(17.9)
3. 雑誌	34(17.9)
5. ラジオ	7(3.7)
6. 本	5(2.6)
7. 電話	1(0.5)
8. その他	2(1.0)

表2 卒業時の新しい情報収集メディア

メディア	記載件数(%)
1. テレビ	63(33.0)
2. 新聞	41(21.4)
3. 会話	38(20.0)
4. 雑誌	23(12.0)
5. ラジオ	12(6.3)
6. 電話	8(4.1)
7. パソコン	3(1.6)
8. その他	3(1.6)

N=190 (単位：件 複数回答) N=191 (単位：件 複数回答)

3) 入学時と卒業時の新しい情報収集メディアの記載者数・記載件数・記載内容の比較

新しい情報収集メディアの記載者数・記載件数は、入学時と卒業時を比べるとほぼ同様で変化はみられなかった。

入学時（表1）と卒業時の新しい情報収集メディア（表2）の記載内容を比較してみると、入学時・卒業時ともに「テレビ」が約33%と最も多く、順位の変動はあったが上位5つの情報収集メディアは同様で変化はみられなかった。

入学時と卒業時で変化がみられたメディアは、「本」が入学時5件であったが、卒業時には記載がなかった。逆に「電話」「パソコン」の記載件数が、入学時より卒業時に増えた。

2. テレビの視聴頻度とよく見るテレビ番組

1) テレビの視聴頻度

入学時と卒業時のテレビの視聴頻度を示したものが図1である。入学時は『よく見る』が43人（67.2%）、『時々見る』が15人（23.4%）、『あまりみない』6人（9.4%）であり、『よく見る』『時々見る』をあわせると90.6%であった。卒業時は『よく見る』が45人（70.3%）、『時々見る』が16人（25.0%）、『あまりみない』が3人（4.7%）であり、『よく見る』『時々見る』をあわせると95.3%で、入学時・卒業時ともにほとんどの学生がテレビを見ていた。

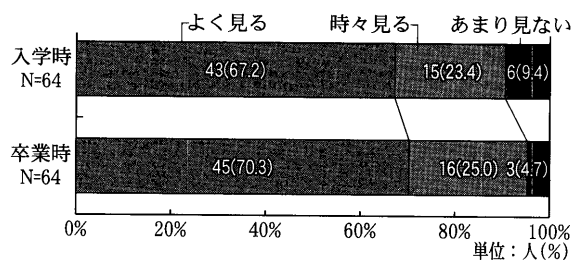


図1 入学時と卒業時のテレビの視聴頻度

2) よく見るテレビ番組

(1) 入学時のよく見るテレビ番組

入学時のよく見るテレビ番組に記載のあった64人の記載総件数345件を分類したものが表3である。「ドラマ」が55件（15.9%）と最も多く、次いで「歌」が50件（14.5%）、「ドキュメンタリー」が37件（10.7%）であった。

(2) 卒業時のよく見るテレビ番組

卒業時のよく見るテレビ番組に記載のあった63人の記載総件数329件を分類したものが表4である。「ドラマ」が53件（16.1%）と最も多く、次いで「歌」が49件（14.9%）、「バラエティー」が45件（13.7%）であった。

(3) 入学時と卒業時のよく見るテレビ番組

の記載者数・記載件数・記載内容の比較
よく見るテレビ番組の記載者数・記載件数は、卒業時は入学時に比べ、記載者数が1人、記載件数が16件少なくなった。

入学時（表3）と卒業時のよく見るテレビ番組（表4）の記載内容を比較すると、

表3 入学時のよく見るテレビ番組

テレビ番組	記載件数 (%)
1. ドラマ	55(15.9)
2. 歌	50(14.5)
3. ドキュメンタリー	37(10.7)
4. ニュース	35(10.1)
5. バラエティー	32(9.3)
5. 医療・福祉	32(9.3)
7. 映画	31(9.0)
8. スポーツ	22(6.4)
9. ワイドショー	17(4.9)
10. 料理	15(4.4)
11. トーク	11(3.2)
12. クイズ	8(2.3)

N=345 (単位:件数 複数回答)

表4 卒業時のよく見るテレビ番組

テレビ番組	記載件数 (%)
1. ドラマ	53(16.1)
2. 歌	49(14.9)
3. バラエティー	45(13.7)
4. ニュース	40(12.1)
5. 映画	29(8.8)
6. ワイドショー	28(8.5)
7. ドキュメンタリー	23(7.0)
8. トーク	17(5.1)
9. 料理	16(4.9)
10. スポーツ	14(4.3)
11. 医療・福祉	13(4.0)
12. クイズ	2(0.6)

N=329 (単位:件数 複数回答)

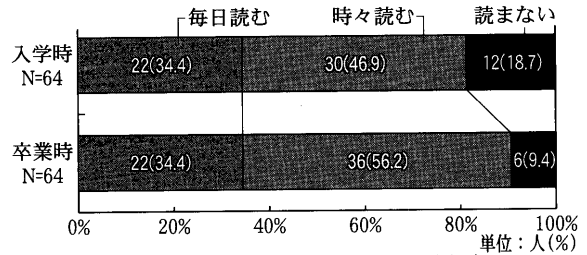
入学時・卒業時ともに「ドラマ」が約16%と最も多く、上位2つの番組は変化がみられなかった。

入学時より卒業時の記載件数が10件以上少なくなった番組は、「ドキュメンタリー」「医療・福祉」であった。逆に、入学時より卒業時の記載件数が10件以上多くなった番組は、「バラエティー」「ワイドショー」であった。

3. 新聞の閲読頻度とよく読む新聞欄

1) 新聞の閲読頻度

入学時と卒業時の新聞の閲読頻度を示したものが図2である。入学時は『毎日読む』が22人(34.4%)、『時々読む』が30人(46.9%)、『読まない』が12人(18.7%)であり、『毎日読む』と『時々読む』をあわせると81.3%であった。卒業時は『毎日読む』が22人(34.4%)、『時々読む』が36人(56.2%)、『読まない』が6人(9.4%)であり、『毎日読む』と『時々読む』をあわせると90.6%であった。これらの結果から、有意差はみられなかったが入学時に比べ卒業時では新聞を読む傾向がみられた。



2) よく読む新聞欄

(1) 入学時のよく読む新聞欄

入学時のよく読む新聞欄に記載のあった52人の記載総件数240件を分類したものが表5である。「テレビ・ラジオ番組」が50件(20.8%)と最も多く、次いで「事件」26件(10.8%)、「医療・福祉関係」25件(10.5%)であった。

(2) 卒業時のよく読む新聞欄

卒業時のよく読む新聞欄に記載のあった59人の記載総件数278件を分類したものが表6である。「テレビ・ラジオ番組」が59件(21.2%)と最も多く、次いで「医療・福祉関係」40件(14.4%)、「事件」・「県内のニュース」31件(11.2%)であった。

表5 入学時のよく読む新聞欄

新聞欄	記載件数 (%)
1. テレビ・ラジオ番組	50(20.8)
2. 事件	26(10.8)
3. 医療・福祉関係	25(10.5)
4. スポーツ	23(9.6)
5. 読者の声	20(8.3)
6. 県内のニュース	19(7.9)
7. 広告	15(6.3)
8. 文化	14(5.9)
9. 社説	13(5.4)
10. コラム	11(4.6)
11. 国際	8(3.3)
12. 家庭	5(2.1)
13. 政治	4(1.7)
14. 経済	2(0.8)
14. 科学	2(0.8)
14. マンガ	2(0.8)
17. 小説	1(0.4)

N=240 (単位:件数 複数回答)

表6 卒業時のよく読む新聞欄

新聞欄	記載件数 (%)
1. テレビ・ラジオ番組	59(21.2)
2. 医療・福祉関係	40(14.4)
3. 事件	31(11.2)
3. 県内のニュース	31(11.2)
5. スポーツ	22(7.9)
6. 読者の声	19(6.8)
7. 文化	17(6.1)
8. コラム	12(4.3)
9. 広告	11(4.0)
10. 社説	10(3.6)
11. 国際	7(2.6)
12. 政治	6(2.2)
13. 経済	4(1.4)
14. 家庭	3(1.1)
15. マンガ	2(0.7)
16. 科学	1(0.3)
16. 小説	1(0.3)
18. その他	2(0.7)

N=278 (単位:件数 複数回答)

（3）入学時と卒業時のよく読む新聞欄の記載者数・記載件数・記載内容の比較

よく読む新聞欄の記載者数・記載件数は、入学時に比べ卒業時では記載者数は7人、記載件数は38件多くなった。

入学時（表5）と卒業時のよく読む新聞欄（表6）の記載内容を比較すると、ともに「テレビ・ラジオ番組」が約21%と最も多く、順位に変動はあったが上位3つの新聞欄は同様に変化はみられなかった。

入学時より卒業時の記載件数が10件以上多くなった新聞欄は、「医療・福祉関係」であった。逆に10件以上少なくなった新聞欄はなかった。

4. 雑誌の読書の頻度とよく読む雑誌の種類

1) 雑誌の読書頻度

入学時と卒業時の雑誌の読書頻度を示したものが図3である。入学時は『よく読む』が24人（37.5%）、『時々読む』が30人（46.9%）、『読まない』が10人（15.6%）で、『よく読む』と『時々読む』をあわせると84.4%であった。卒業時は『よく読む』が15人（23.4%）、『時々読む』が30人（46.9%）、『読まない』が19人（29.7%）で、『よく読む』と『時々

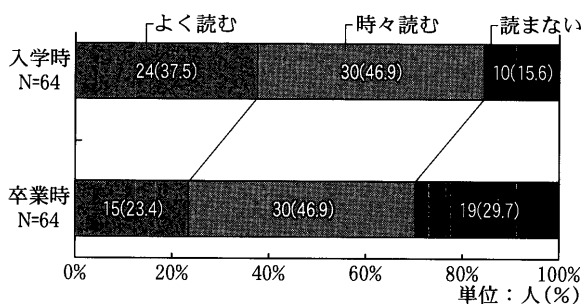


図3 入学時と卒業時の雑誌の読書頻度

表7 入学時のよく読む雑誌の種類

雑誌の種類	記載件数 (%)
1. ファッション	47(60.2)
2. 音楽	7(9.0)
3. 料理	6(7.7)
4. 映画	5(6.4)
4. 情報誌	5(6.4)
6. スポーツ	2(2.6)
7. その他	6(7.7)

N = 78 (単位：件 複数回答)

読む』をあわせると70.3%であった。これらの結果から、有意差はみられなかったが入学時に比べて卒業時では雑誌を読まない傾向がみられた。

2) よく読む雑誌の種類

(1) 入学時のよく読む雑誌の種類

入学時のよく読む雑誌の種類に記載のあった54人の記載総件数78件を分類したものが表7である。「ファッション」が47件（60.2%）と最も多く、次いで、「音楽」7件（9.0%）、「料理」6件（7.7%）であった。

(2) 卒業時のよく読む雑誌の種類

卒業時のよく読む雑誌の種類に記載のあった42人の記載総件数62件を分類したものが表8である。「ファッション」が41件（66.1%）と最も多く、次いで、「音楽」6件（9.7%）、「看護」4件（6.5%）であった。

(3) 入学時と卒業時のよく読む雑誌の記載者数・記載件数・記載内容の比較

よく読む雑誌の記載者数・記載件数は、入学時に比べ卒業時では記載者数は12人、記載件数は16件少なくなった。

入学時（表7）と卒業時のよく読む雑誌の種類（表8）を比較すると、ともに『ファッション』が6割以上であり最も多く読まれていた。

5. 読書の頻度と読書の種類

1) 読書頻度

入学時と卒業時の読書の頻度を示したものが図4である。入学時は『よく読む』が11人

表8 卒業時のよく読む雑誌の種類

雑誌の種類	記載件数 (%)
1. ファッション	41(66.1)
2. 音楽	6(9.7)
3. 看護	4(6.5)
4. 料理	3(4.8)
4. 情報誌	3(4.8)
6. 趣味	2(3.3)
7. その他	3(4.8)

N = 62 (単位：件 複数回答)

(17.2%)、『時々読む』が42人(65.6%)、『読まない』が11人(17.2%)であり、卒業時は『よく読む』が5人(7.8%)、『時々読む』が28人(43.8%)、『読まない』が31人(48.4)であり、入学時に比べ卒業時には本を読まなくなった。入学時の読書頻度と卒業時の読書頻度の間に0.1%水準で有意な差がみられた。

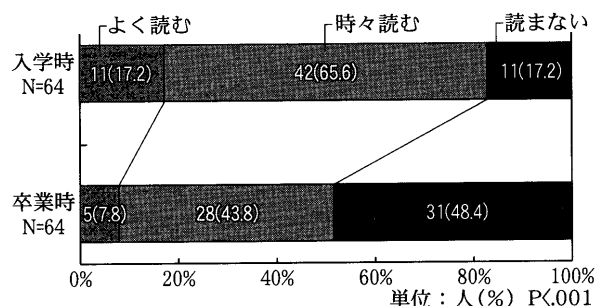


図4 入学時と卒業時の読書頻度

2) 読書の種類

(1) 入学時読書の種類

入学時の読書の種類に記載のあった52人の記載総件数72件を分類したものが表9である。「小説」が31件(43.0%)と最も多く、次いで「医療・看護・福祉」13件(18.1%)、「ノンフィクション」5件(6.9%)であった。

(2) 卒業時の読書の種類

卒業時の読書の種類に記載のあった26人の記載総件数35件を分類したものが表10である。「小説」が18件(51.4%)と最も多く、次いで「医療・看護・福祉」・「エッセイ」がともに4件(11.4%)であった。

表9 入学時の読書の種類

読書の種類	記載件数 (%)
1. 小説	31(43.0)
2. 医療・福祉・看護	13(18.1)
3. ノンフィクション	5(6.9)
3. エッセイ	5(6.9)
5. 詩集	2(2.8)
5. いろいろな本	2(2.8)
5. ジャンルは問わない	2(2.8)
5. 話題になっている本	2(2.8)
9. その他	10(13.9)

N=72 (単位：件 複数回答)

(3) 入学時と卒業時の読書の種類の記載者数・記載件数・種類の比較

読書の種類の記載者数、記載件数は、入学時に比べ卒業時では、記載者数は26人、記載件数は37件少なくなった。

入学時(表9)と卒業時の読書の種類(表10)を比べると、ともに『小説』が最も多く、上位4つの読書の種類は同様で変化はみられなかった。

IV. 考察

1. 新しい情報収集メディアについて

新しい情報収集メディアは、入学時・卒業時ともに「テレビ」「新聞」「会話」が上位3つであった。その中でもテレビが最も多く、入学時・卒業時ともに約33%であった。藤田の大学生を対象とした研究⁵⁾で、大学生はテレビを速報性・表現能力に優れているメディアと評価をしており、また、NHK国民生活時間調査⁶⁾で、平日テレビを見ている行為者が約92%である。このことから、テレビは私たちの生活に入り込み見る機会が多いため、本学の学生も新しい情報を得るメディアとしてとらえ、最も多かったと考えられる。

「新聞」は、テレビに比較すると速報性には劣るが翌日には情報が入ること、また、自分のペースで読み進めることができるメディアであることから、本学の学生も多く活用していたと考えられる。

「会話」は、NHK国民生活調査⁷⁾では「会話・交際」の行為率が、女16~19歳、女20代が他の年代と比較すると高いと報告されている。本学の学生もこの年代の女子がほとんどであることから、会話する時間が多く、会話の中から新しい情報を得る機会が多いと考えられる。

入学時に記載があったが卒業時には記載がなかった「本」は、他のメディアと比較し速報性

表10 卒業時の読書の種類

読書の種類	記載件数 (%)
1. 小説	18(51.4)
2. 医療・福祉・看護	4(11.4)
2. エッセイ	4(11.4)
4. ノンフィクション	2(5.8)
5. その他	7(20.0)

N=35 (単位：件 複数回答)

がなく、読むために時間がかかることなどから、新しい情報を得るメディアとしてはとらえにくくなり、卒業時に記載がなかったと思われる。

一方、「パソコン」が入学時には記載がなかったが卒業時にあり、「電話」が増えたことは、社会全体がインターネットと携帯電話を活用する傾向にあることが影響していると思われる。特に1998年後半からは、インターネットや電子メールが携帯電話からも利用できるようになったことにより、電話が会話だけではなく情報収集メディアとして本学の学生にも活用され多くなったと考えられる。今後、インターネットからの情報収集は必須であり、教材としての活用を考えていくことが必要と考える。

2. テレビ視聴頻度とよく見るテレビ番組について

テレビを『よく見る』と『時々見る』を合わせると入学時が約90%、卒業時が約95%であった。これは、テレビが日本人の生活行動に入り込んでいること、また、何かをしながらでも情報を得ることができることから視聴頻度が高いメディアであり、本学の学生も日本人全体の傾向と同様であったと考えられる。

よく見るテレビ番組は、入学時・卒業時ともに「ドラマ」が約16%と最も多く、次いで「歌」であった。「ドラマ」は、恋愛、友情、サスペンス、コメディなどで構成されており、また、「歌」は流行の歌や歌手のファッションなどを知ることができることもあり、若者の興味・関心を惹く内容であることから本学の学生も多く見ていたと思われる。

入学時に比べ卒業時に少なくなった番組は、「ドキュメンタリー」「医療・福祉」であった。特に「医療・福祉」は、本学の学生の入学選択理由が「看護婦になりたいから」⁸⁾が最も多かったことから、入学時は興味・関心が高かったと思われる。また、安藤⁹⁾の看護学生を対象とした研究でも同様の結果であることから、看護学生の入学時にみられる傾向とも考えられる。卒業時に少なくなったのは、実習や受験勉強などに追われ、これらの番組を見る時間的な余裕がなくなったことも一因と考えられる。

一方、入学時に比べ卒業時に多かった番組は「バラエティー」「ワイドショー」であった。「バラエティー」はクイズやゲームにお笑い芸

をからませた内容であり、「ワイドショー」は芸能情報などが多く、若い学生の興味・関心が高い内容であり、また、短時間で楽しみ・気分転換ができる番組である。このことから、時間的な余裕がない3年次でも、興味・関心がある内容を短時間で見るができる番組であるため多くなったと考えられる。

これらのことから、学生は入学時・卒業時ともにテレビに娯楽を求めていると思われる。しかし、今後、看護の専門職として判断し行動するためには、医療・福祉およびこれらの政策などに関する最新の情報を知ることが必要と考える。学生がこれらの情報を得ることができる番組に興味・関心がもてるように、教授活動の中でこれらの特集番組などを活用し、自ら積極的に見るような働きかけが必要と考える。

3. 新聞の閲読頻度とよく読む新聞欄について

新聞を『毎日読む』と『時々読む』をあわせると入学時は約79%であり、卒業時は約91%であった。これは、寺出ら¹⁰⁾の女子大学生・短大生を対象とした新聞の閲読状況と比較すると本学の学生は、新聞を読む傾向にあると言える。さらに、本学の学生は、入学時よりも卒業時に新聞を読む傾向にあった。

よく読む新聞欄は、入学時・卒業時ともに「テレビ・ラジオ番組」が約21%と最も多かった。これは、テレビ・ラジオ番組をみることによって、どのような情報をどのような番組から得たらよいかを選択するためと思われる。また、入学時に比べて卒業時に「医療・福祉関係」が15件も増えたことは、新聞にある医療・福祉の内容が、現在、社会的に興味・関心の高い政策・事象、一般の人達に対する知識の普及などであり、専門職をめざす本学の学生も、これらに興味・関心が広がりつつあると考えられる。

4. 雑誌閲読頻度とよく読む雑誌の種類について

雑誌を『よく読む』と『時々読む』をあわせると入学時が約85%であり、卒業時が約70%であった。これは、毎日新聞社の読書世論調査の「10代後半から20代は雑誌を読む行為率が高い」¹¹⁾と同様の傾向であった。雑誌は文字だけではなく、イラストや写真が多く記載されており、テレビなど映像に親しんでいる学生には好ましいメディアであるため多く読まれているのではな

いかと考えられる。しかし、入学時に比べて卒業時に雑誌を読まない傾向になったのは、学生生活が忙しくなり読む時間が少なくなったためと思われる。

よく読む雑誌の種類として『ファッション』が入学時・卒業時ともに約6割を占めていたことは、ファッションがより関心を惹く内容であるためと考えられる。

一方、看護の専門的知識を学んでいる学生でありながら、卒業時でも医療・看護に関する雑誌をほとんど読んでいなかった。これは、学生が医療・看護の情報を成書からのみ得ているとも考えられる。このことから、専門的な判断や行動をするためには、体系だった成書からの知識とともに、最新の情報を雑誌から得る必要があるため、医療・看護の雑誌などを活用したり、雑誌からの最新情報を学生に紹介し、学生自身が興味をもって読んでいく教授活動が必要と考える。しかし、図書館で看護学雑誌を手に入れている学生を多く見かけることから、ここでは学生が一般の雑誌と受け止め記載が少なかったとも考えられる。

5. 読書の頻度と読書の種類

本を『よく読む』と『時々読む』をあわせると入学時より卒業時が約30%少なくなった。それに伴い読書の種類の記載者数・記載件数ともに少なくなった。これは、毎日新聞社の読書世論調査¹²⁾の本を読まない理由の第1位が「忙しくて読む時間がない」である。このことから、本学の学生も3年次になり、臨床実習のための予習・復習や国家試験・進学受験勉強などに時間が多く費やされ時間的な余裕がなくなり、読書の頻度が少なくなったと考えられる。

読書の種類としては、入学時・卒業時ともに「小説」が最も多く、次いで「医療・福祉・看護」であった。「小説」は、毎日新聞社の読書世論調査¹³⁾の主に読む本のジャンルでも第2位であり、一般に多く読まれる本であるため本学の学生も多かったと思われる。「医療・福祉・看護」は第2位であるが読んでいる割合は少なかった。

これらのことから、読書は、登場人物になりきったり、心情を察しながら読み進められるものであり、自分以外の人の考えを知ったり、思いやりなど感性を育むためには重要である。そ

れゆえに、3年次で忙しい学生でも、短時間で読める本を積極的に紹介していくことが必要であると考えられる。

本研究の限界は、1) メディアからどのような意識で情報を得ているかを調査していないため、その点からの分析が不十分であること、2) 看護の専門的な情報をどのようなメディアから得ているのかを調査していないため分析ができないこと、3) 1施設の調査であるため一般化に限界があること、などがあげられる。

今後の課題は、看護の専門職をめざす学生が、どのようなメディアからどのような情報をどのような意識で得ているかを明らかにすることである。

V. 結論

今回の調査により、以下の結論が得られた。

1. 新しい情報収集メディア上位3つは、入学時・卒業時ともに「テレビ」「新聞」「会話」であった。
2. テレビを『よく読む』『時々読む』をあわせると入学時約90%、卒業時約95%で、ほとんどの学生がテレビを見ていた。よく見る番組は、入学時が「ドラマ」「歌」「ドキュメンタリー」、卒業時は「ドラマ」「歌」「バラエティー」であり、上位2つの番組に変化はみられなかった。
3. 新聞を『よく読む』『時々読む』をあわせると、入学時約81%、卒業時約91%で、入学時と比べ卒業時では新聞を読む傾向にあった。よく読む新聞欄は、入学時・卒業時ともに「テレビ・ラジオ番組」「医療福祉関係」「事件」であり変化はみられなかった。
4. 雑誌を『よく読む』『時々読む』をあわせると、入学時約85%、卒業時約70%で、入学時に比べ卒業時では読まない傾向であった。よく読む雑誌は、入学時・卒業時ともに「ファッション」が最も多く約6割を占めていた。
5. 本を『よく読む』『時々読む』をあわせると入学時約85%、卒業時約52%で、入学時に比べ卒業時は本を読まない傾向がみられた。これらの間では、0.1%水準で有意な差があった。よく読むの種類は、入学時・卒業時ともに「小説」が最も多かった。

おわりに

今回の調査にご協力くださいました本学の看護学科2期生の皆様に心より、お礼申し上げます。

引用文献

- 1) 南雲美代子, 滝内隆子, 佐々木真紀子, 大島弓子: 看護学生のメディアからの情報に関する実態—本学看護学科1期生の入学時調査から—, 日本赤十字秋田短期大学紀要, No. 1, pp77-82, 1996.
- 2) 南雲美代子, 滝内隆子, 大島弓子, 佐々木真紀子, 酒井志保: 看護学生のメディアからの情報収集に関する実態（第2報）—本学看護学科2期生の入学時の調査から—, 日本赤十字秋田短期大学, No.2, p.43-51, 1997.
- 3) 南雲美代子, 大島弓子, 滝内隆子, 佐々木真紀子, 酒井志保: 看護学生のメディアからの情報収集に関する実態—入学時から1年後の縦断調査から—, 日本看護研究会雑誌, 21 (3), p. 297, 1998.
- 4) 南雲美代子, 大島弓子, 滝内隆子, 佐々木真紀子: 看護学生の入学時・2年次の読書状況とその変化—読書頻度と関心の高い本—, 日本赤十字秋田短期大学, No.4, p. 9-15, 2000.
- 5) 藤田祐: 経営情報系大学1・2年生による情報収集メディアの評価, 東京情報大学研究論集, 3 (2), p. 69, 1999.
- 6) N H K放送文化研究所編: 日本人の生活時間1995—N H K国民生活時間調査—, 日本放送出版協会, p. 12, 1995.
- 7) 前掲6), p. 212-230.
- 8) 酒井志保, 滝内隆子, 大島弓子, 佐々木真紀子, 南雲美代子: 看護学生の受験理由と看護学科選択理由に関する実態（第2報）—本学看護学科2期生の入学時調査から—, 日本赤十字秋田短期大学紀要, No. 2, p. 34-35, 1997.
- 9) 安藤宣子: 看護学生の読書に対する意識調査, 図書館学, No. 64, p. 12-13, 1994.
- 10) 寺出浩司: 現代の若者像, 実践女子短期大学評論, No.13, p. 52, 1992.
- 11) 読書世論調査1999年版, 毎日新聞東京本社広告局, p.15, 1999.
- 12) 前掲11), p. 28.
- 13) 前掲11), p. 25.